
恋は、突如終わりを告げるモノ...

りす君

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋は、突如終わりを告げるモノ…

【Nコード】

N5442D

【作者名】

りす君

【あらすじ】

何気ない、彼女からのメール。そこから、恋の終わりは告げられた。

（前書き）

過去の作者の実話を基に、アレンジを加え推敲された作品。

君との別れは、突然訪れた。

高校からの帰り道、ボクは神社の境内で一休みしていた。
ボクは制服の内ポケットから何気なく携帯を取り出した。

（メール一通）

誰からだろうと確認すると、彼女からだった。 久しぶりに彼女からメールが届いたので、驚き半分嬉しさ半分で内容を確認してみた。

（…ごめんなさい。）

たった一言だけ、普段使ってる絵文字も無かった。
その文面を見て、ボクは突然不安に駆られ、彼女の携帯に電話してみた。

数秒後、彼女の携帯に通じた。 彼女が電話に出る。

「どうした？ メール見たけど…。」

電話越しに聞こえてくる、彼女のすすり泣き。 最初、彼女は無言だった。

「何かあって、俺にメールしたんじゃないのか？」

ボクの不安混じりの問いに、ようやく彼女が口を開いた。

「私と、別れて。」
「…えっ？」

突然の別れ話だった。

「な、何言ってるんだよ。本当にどうしたんだ？」

明らかに動揺した声が出たのは、ボク自身でもよく解った。

「…俺、何かしたのか？ 浮気はしてないぞ？ それとも、俺自身気付かない内にヒドい事でもしたのか？」

ボクは、必死に彼女へ問い掛ける。でも彼女は、

「うっん…違う。」

と否定する。

「全部…私が悪いの。」

その言葉の意図が、全く捉えられなかった。

「俺の事、嫌いにな…。」

「違うっ！」

ボクの言葉を遮り、彼女が言った。

一瞬の静寂の後、彼女は呟いた。

「もう…好きかどうか私の中で解らなくなっちゃったの…。」

再び、二人の間に静寂が流れる。

「本当に…」…「ごめんなさいっ！」

そう言うと、彼女は電話越しで号泣した。

「う…嘘だろ？」

自然と口から出た言葉。 どうしようも無い、この状況。

「嫌だ！ 絶対、別れたくない！」

ボクは、必死にワガママを言った。 まるで、駄々をこねる子供のように。 周りに人影が居なかったのは、唯一幸いだが。

「好きなのに、何で別れなくちゃなんないのさ!？」

ボクは、半ば彼女に怒りの意が込めていた言葉を発していた。 そんな意志も無かったのに。 そ

「何で…俺達今まであんなに仲良かったのに…楽しかったのに…愛し合ってたのに…」

言っている内、自然と声が細くなっていた。

「…ひつく…うぐっ…」…「ごめっ…ひつく…」

彼女は、泣きながら必死に謝っていた。

地面にへたり込み、ボクはゆっくりと顔を上げた。

木枯らし吹く寒空の下、木々が互いの枝を揺らしながら音を立てて

いる。その光景が、ボクの虚しさを駆り立てていた。
へたり込んでいる内に、寒さからかボクは冷静にこの状況を飲み込めるようになっていた。

「俺達…もう終わりなのか？」

震える唇から、必死に出た言葉。

「…うん。」

彼女の、か弱い泣き声。

「…そうか。」

ポツリと呟く。

「…うん。」

この瞬間、ボクの気持ちは整理出来た。
最後に、彼女へ感謝の気持ちを言った。

「今まで付き合ってくれてありがとう。一緒に過ごした時間は本当に楽しかった、充実だった。」

「…私も、好きになって本当に良かった。今までありがとう。」
「うん…。」

一呼吸置き、彼女は言った。

「さよなら…。」

「…うん。」

(ツ…ツ…ツ…)

通話が切れた。

「…ふうー。」

途切れた瞬間、ため息が漏れた。

こうしてボクと彼女の恋は、終わった。

本当に悲しい時は、涙なんか出ないんだ…。
帰り道、そうボクは
悟った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5442d/>

恋は、突如終わりを告げるモノ...

2010年10月17日11時09分発行